

# 絵本 Vol.3 いいね!

今回の「いいね!な絵本」は

## 『なくなりそうな世界のことば』

吉岡 乾 著 / 西 淑 イラスト

創元社



今回のいいね!な絵本は、いま大人気の創元社「世界を旅するイラストブック」シリーズから『なくなりそうな世界のことば』をご紹介します。  
この本の魅力は、世界中の少数言語と、それをイメージしたイラストの美しさ。  
その場所にしか存在しない言葉と、イラストのマリアージュを完成させた皆さんにお話を伺いました。  
シリーズ編集担当の内貴さん、著者の吉岡さん、イラストを描いた西さん、装丁デザイナーの近藤さん、印刷を担当した塩田さんが、その想いを語ります。

内貴麻美さん

### 絵本を通して知的好奇心が満たされる

いま様々なメディアに取り上げられて話題となっている大人のための絵本「世界を旅するイラストブック」シリーズ。  
シリーズの企画から編集までを担当する創元社の内貴さんに、その独自の魅力を余すところなく伺いました。



「世界を旅するイラストブック」シリーズを通して、伝えようとしているテーマは何ですか？

1冊1冊テーマで、世界の様々な事柄を集めた、「イラストと一緒に楽しむ大人の絵本」がテーマです。家にながらにして、本の世界で旅をしてもらえたらと思っています。

「なくなりそうな世界のことば」を刊行しようと思ったきっかけを教えてください。

きっかけは1冊目の「翻訳できない世界のことば」だったんですけれど、これはイギリス人作家の著作を翻訳した本で、刊行後にすごく反応が良かったんです。次も同じ作家の翻訳本を出したのですが、その後が続く本を日本独自に作りたがって、新たに言葉を扱った本を企画しました。「翻訳できない世界のことば」の中にイヌイット語や少数民族言語の

ヤガン語などが入っていて、それが読者の方たちから好評だったので、そこからヒントを得たというのが大きいと思います。

イラストに西さんを起用していますが、イラストでこだわった点を教えてください。



もともと西さんの作品が好きで、お声掛けしました。西さんの作品は、静謐で美しく、素朴な力強さが魅力ですが、どこかユーモラスなところや、ちょっと神話的な世界観もあって、今回の少数言語というテーマにぴったりだと思いました。

西さんご自身で、切り絵と水彩の両方の手法で絵を描いてくださいました。単語の意味をそのまま具現化するよりは、言葉から西さんがイメージを膨らませて、その一部を絵にしてほしいとお願いしました。

繰り返し練ってくださいました。絵もたくさんあるのですが、そのたびに良くなっていて、すごく手をかけてくださったんだなと思っています。ラフから色が着いたものを見た瞬間は「わぁキレイ」と思いました。

印象に残っていることや苦勞したところを教えてください。

青やオレンジが入っているページは色を出すのが難しかったので印象に残っています。プリンティングディレクターの塩田さんいろいろなご提案していただいて、「ここの色」を変えたら、こっちの色)が変わるよ」とか、印刷の知識をいろいろ教えていただきながらやったので、印象深いですね。イラストの背景が淡いクリーム色なので、印刷してない部分の白との境界がわかるように工夫しました。

### いいね!な絵本を編集した人



内貴麻美さん

株式会社創元社編集。『世界を旅するイラストブックシリーズ』を始め、様々な書籍の編集を手掛ける。

内貴さん、ありがとうございます。

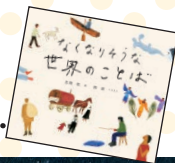
異国の文化への驚きだけではなく、「異国なのに同じになつていくところが面白い」という感想をいただくので、旅好きの方や言葉好きな方に楽しんでもらえたいと思います。絵本を通して、どこかに知的好奇心が満たされる部分があればいいなと。完全なフィクションではなく、「空想が膨らむちょっと知識を得られる」というのをコンセプトとしていますので、それぞれの絵と一緒に楽しんでいただけたらと思います。



今後のシリーズについて、もしよろしければ教えてください。世界の風の名前を集め、絵を添えて紹介するというものを進めています。著者が気象学の先生なので、専門的な解説も加えて紹介します。今までよりもさらに「旅感」があるんじゃないかなと思います。もうひとつ、世界の創造神話を集めたものも考えています。

読者の方に伝えたいメッセージをお願いします。





## 「なぜその単語が選ばれたのか」を想像して

古今東西のことばは全て、等しく複雑で、価値高く、かけがえないものです。この本では、各ことばの文化的背景、地理的環境に根差しているような単語を集めています。「遠い異国だから、我々とは違う」ばかりではなく、「遠い異国なのに、我々と似ている」も探してみてください。また、学術的な解説をヒントに、「なぜその単語が選ばれたのか」を想像してみてください。

のぼる  
**吉岡 乾さん**



## いいね! な絵本を書いた人



**吉岡 乾さん**

千葉県船橋市生まれ。東京外国語大学大学院博士課程修了。博士(学術)。専門は言語学・フィールド言語学。2014年より、国立民族学博物館助教。

## 「なくなりそうな世界のことば」に絵を添えて

テーマも興味深く、とても楽しみに取り組んだものの、実際描きすすめていくうちに、50もの単語にまつわる民族についてどんな絵を添えたらいいのかも悩みました。そうして描いた絵を編集の内貴さんに見せると「もっと西さんらしく描いて下さい」と言ってくれました。ことば、文化、生活、民族をとりまくすべてのものが、いまこの瞬間にも消えているというテーマの重さに、プレッシャーを感じて、自分らしい絵が描けていなかったことに気づきました。時間をかけて、半分以上絵を描き直しました。粘り強く待つ、助言をくださった編集の内貴さんと、吉岡先生のおかげで、良い絵を添えることができ、自分にとっても大切な1冊です。ページをめくってどこか遠くの誰かがこのことばを使って、暮らしていると思像することは、世界がぐっと広がった気分になります。ことばと絵に触れて、まだ見ぬ世界のイメージを膨らませていただけたら嬉しいです。

にしじゅく  
**西淑さん**



## いいね! な絵本を描いた人



**西淑さん**

福岡県生まれ。雑誌、広告、パッケージ、CDジャケット、書籍の装丁などのイラストレーションを手がける。京都、鳥取を拠点に活動。

## 世界中のことばを膨らませた世界観を届けたい

初めて聞く世界中のことばと、イメージを特定しきれない絵と書き文字の持つ世界観が、互いに関わりながら膨らみを持って届けばと考えてレイアウトをしました。原画の「青」の美しさが特に印象的で、赤版のインクを調整して近づけてもらっています。彩度が上がり、同時に本全体の印象も明るくなりました。原画の背景の紙地の質感を意図的に再現しないことで、切り絵の立体感や筆のタッチはより印象的になったと思います。

近藤 聡さん



## いいね! な絵本をデザインした人



**近藤 聡さん**

グラフィックデザイナー。明日日デザイン制作所代表。解くべき問題の発見を重視し、グラフィックを中心としたデザインによる解決を目指す。神戸芸術工科大学、京都造形芸術大学非常勤講師。

## 一貫したトータルコーディネートができるのがPDの役目

### いいね! な絵本を印刷した人



**塩田 英雄さん**

【プロフィール】  
図書印刷株式会社所属プリンティングディレクター。関西を中心に、多数の印刷物における色調の再現、印刷物の進行管理を手がける。

本クレジットにPDとして名前が載ることに、想いはありますか？  
これはもう「責任感」ですよ。恐縮しております(笑)  
塩田さん、ありがとうございます。

普通の4色では出ない色をどうやって再現したのでしょうか？  
赤版にノーマルのマゼンタと蛍光ピンクを半々に混ぜたものを使用して再現しました。オレンジとブルーだけにこだわっていると、他の色がおかしくなる。4色で表現するときは他のイラストに影響が出ないようには、一番苦労します。結果としては綺麗に出て、お客様にもすごく喜んでいただきました。

## 塩田 英雄さん



「なくなりそうな世界のことば」という作品に対しての想いを教えてください。  
基本的には色を視るだけではなく、初めの製造設計から関与します。できることなら最後の製本まで見届けるのが本来の在り方かなと僕は思っています。一貫したトータルコーディネートができるのがPDの役目かなと。



絵本っていいね!



『なくなりそうな世界のことば』のお求めはお近くの書店等にお問い合わせください。

